

パッケージはコストから戦略的ツールへ お客様とともに需要を創造する、デジタル印刷戦略



概要

業種：ラベル・包装
業種：ラベル&パッケージ
企業名：吉村紙業株式会社
本社所在地：日本 東京都
ウェブサイト：
yoshimura-pack.co.jp



企業名：茗広茶業株式会社
本社所在地：日本 静岡県
ウェブサイト：
meiko-chagyo.co.jp



課題

- 吉村紙業は、品質において妥協することなく迅速に小ロット印刷ができる柔軟な印刷プラットフォームを必要としていた。

解決策

- 同社はHP Indigo WS4500 デジタル印刷機を設置、高い実績を収めたため、WS6000 印刷機3台、WS6600 印刷機1台を更に導入。

結果

- 吉村紙業のデジタル事業は4年間で500%成長、現在そのジョブ数は従来からのグラビア事業を上回っている。
- 版無し小ロット印刷によって顧客の新しい試みを即座に実現すること可能になり、新しい需要を創造する説得力の高いテストマーケティングを行うことができる。
- グラビア印刷を使用した場合の最終製品納期が14~20日間であるのに対し、一般的なデジタル印刷のジョブでは校正後7日間で最終製品を納めることができる

「グラビアの激しい単価競争から一歩抜け出て、デジタルとグラビアを最適提案できることで、営業はお客様と一緒にワクワクしながら考えることができ、飛躍的に提案の幅が広がりました。」

－ 吉村紙業社長、橋本久美子氏



創業1932年の吉村紙業は、日本茶を中心とする食料品の軟包装パッケージ印刷で業界大手に成長。日本緑茶の包装資材メーカーとしては国内トップのシェアを持つ。東京に本社を構え、6か所の営業所で全国8000件の顧客をカバーする。年商は約50億円。従業員数は205名、日本茶の産地として有名な静岡県に生産拠点を有する。

パッケージに対する認識の変化が小ロット化を牽引

創業以来、吉村紙業はグラビア印刷を中心に、デザイン、印刷、スリット、ラミネート加工、製袋までを扱う、日本では数少ない完全一貫生産を行うパッケージコンバーターとして顧客の様々な要求に対応してきた。ところが、顧客からの小ロット要求が年々強まる中で、グラビア印刷でのパッケージ製造では顧客の要求に対応できないという課題があった。

「昔、モノがあれば売れた時代、パッケージはコストにすぎなかった。ところが、日本の経済成長やペットボトル飲料の導入に伴って世の中にモノがあふれ、マーケティング分析の必要性が強まってきました。」吉村紙業社長、橋本久美子氏は説明する。「どのような方にどのようなメッセージを伝えるべきか、ターゲットとなる顧客を細分化した戦略が求められるようになり、消費者の視点に立ったデザインを検討する必要がある。つまり、パッケージはコストではなく、商品売るための戦略的なツールであると考え始めたことが大きな転換だった。」

5年間で驚異的な伸びを遂げたデジタル印刷ビジネス

年々強まる小ロット要求への対応を目的に、2008年吉村紙業はHP Indigo WS4500 デジタル印刷機を導入した。

「お客様が企画する新商品のアイデアを即座にパッケージに反映すること、あるいは、セグメント別に複数のバージョンを提供することなど、これまでは不可能であった価値を提供するHP Indigoデジタル印刷機は、私達にとって大変大きな財産です。当社ではIndigoの導入により、多くの新しい試みが可能になりました。版代がないということも大きなメリットであり、新しい企画を簡単かつ迅速に実行することができ、結果を比較することで最良の選択が可能になりました。このようなプロセスは、顧客企業、当社双方にとって素晴らしいメリットです。」と橋本氏は言う。

HP Indigo WS4500 デジタル印刷機の導入が功を奏し、吉村紙業のデジタル印刷ビジネスは起動に乗り、現在に至る5年の間に、3台のHP Indigo WS6000 デジタル印刷機と1台のHP Indigo WS6600デジタル印刷機を導入した。今やIndigoのジョブ数がグラビアのジョブ数をはるかに上回り、過去4年間で4倍のビジネスに成長した。

「当社には現在デジタル印刷機が4台ありますが、そのうちの3台による最大印刷量は今年2013年3月に540万インプレッションを超えました。」橋本氏は続ける。「Indigoの導入後、案件数は年に約120%ずつ増加しており、営業メンバーは価格競争無しで顧客に提案ができることを楽しんでいる、これは素晴らしいことであり、成長を維持する大きな一つの要因です。」

グラビアの印刷品質の弱みを補完するHP Indigo

吉村紙業のデジタル印刷ビジネスの成長を支えた背景に、小ロット印刷およびバージョン印刷など、デジタル印刷特有の機能のみならず、HP Indigo デジタル印刷機による印刷品質の高さが重要な要素になっている。



「日本緑茶のパッケージにおいてはデザインに多くのグラデーションが見られる中で、グラビア印刷によるグラデーションの表現には10～15%は再現が難しく、どうしても段差が生じておりましたが、HP Indigoデジタル印刷機はグラデーションの表現に優れ、1%のスムーズなカラー階調を再現することができます。Indigo印刷機に切り替えてからはその滑らかなグラデーション再現によって、お客様の満足を得ております。」吉村紙業副社長、吉村鉄也氏は言う。「それに加え、HP Indigoは従来グラビアでは色がしっかりとのらなかった和紙、クラフト紙を中心とした紙素材全般への写真再現に優れており、お客様から大きな評価をいただいております。」

新しい需要の創造に貢献

吉村紙業が展開するデジタル印刷ビジネスのメリットによって業績を伸ばしている企業の一つが、吉村紙業の1973年以降の顧客、卸問屋の茗広茶業である。「旧来の慣習にとらわれず、思い切った商品開発を実践すること」をモットーとする茗広茶業は、旧来からの抹茶のイメージを払しょくする新しい商品開発に取り組んでいた。主婦が料理を行うシーン、若いOLがカバンに入れて持ち歩くシーンなど、これまでの常識を覆す、日常的でカジュアルな抹茶の全く新しい捉え方を、PETに印刷しアルミ箔でラミネート加工を施した110mm×145mmサイズのチャック付きのスタンドパウチで表現し、市場に送り込んだ。

「新しい企画を実現する際、グラビア印刷を前提とした場合は最低ロットが2万3千個となるが、Indigoを活用すれば1つのデザインあたり3千個という小ロットで提供でき、納期もグラビアに比べ圧倒的な速さで納品できます。」と橋本氏は語る。「また、1つのデザインに決め打ちするのではなく、同時に複数のデザインを付け合わせることで消費者の心を捉えるパッケージデザインは何かということを実際の市場の反応を見て確信することができます。つまり、考えながら走ればよいということ。とにかくいち早くスタートを切れることが価値になる。これまでの慣習に囚われず、新しい需要を創造する説得力の高いテストマーケティング手法として成功の第一歩を踏み出したことはお客様にとっても満足していただいています。」

茗広茶業社長、長瀬隆氏も同様に推薦する。「パッケージデザインを変えて市場の反応を見たいと思っても、今までは製版代がネックとなるので差し控えていました。パッケージへのステッカー貼付も試しましたが、やはり商品としての質感が大きく変わってしまうのであまり効果が上がりませんでした。このような課題に直面している時に、吉村紙業さんからIndigoを活用した新しいデジタルサービスの提案があり、正直最初はグラビア印刷に相当する品質が出せるのか、と疑心暗鬼でしたが、印刷物を見た瞬間に予想以上に優れていることがわかりました。実際、Indigo WS6000の画質はグラビア印刷に勝るとも劣りません。また品質だけではなく、パッケージの物理強度も高く、1年経っても品質、強度の劣化はほとんどありませんでした。かなりレベルの高いパッケージに仕上がっていることに満足しています。」長瀬氏は続ける。「Indigoを活用するようになってから、お茶だけではなく健康食品などの異業種にも展開できるようになり、実際に売り上げも伸びている。今後はプライベートブランド商品にもIndigoを活用していく予定です。吉村紙業のデジタル印刷サービスの活用は、今後も増え続け、当社の営業戦略の大きな柱になるものと予想しています。」

吉村紙業は同社の成長・発展にHPが重要な役割を果たすと確信

「将来的には、日本茶ビジネスだけでなく、食品のパッケージング全般でデジタル印刷の用途拡大を計画しています。また、Web to Printのサービス開発にも注力していきます。スタッフとのやりとりも必要としない、個々が自分でデザインしたユニークなパッケージを小ロットで印刷できるようなサービスの構築によって、お客様のより細かい要求に対応しつつ、同時に内部的にも高い生産効率を両立する仕掛けとなります。これからはIndigoの効果的な活用において、どんどん新しい境地を切り開いていきたいと考えております。」と橋本氏は締めくくります。



Get connected.
hp.com/go/graphicarts

Share with colleagues.



記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。
記載事項は2013年6月現在のものです。本カタログに記載されている情報は取材時におけるものであ
り、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承下さい。
©Copyright 2013 Hewlett-Packard Development Company, L.P. 日本ヒューレット・パカード株式会社

〒136-8711 東京都江東区大島2丁目2番1号

4AA4-8333JPN, 2013 年10月

